



外国人とともに生きる大田・市民ネットワーク 会報

つうしん
通信
NEWSLETTER



第11回 一般社団法人OCNet 社員総会報告

日時 2019年5月26日(日) 13:00~15:00

場所 山王会館

出席 21人、委任状 33人

代表 天明 尚子

◆ 2018年度活動総括

理事会、事務局会議を通し皆で意見を出し合い、協力しながらこの1年の活動を運営してきました。

今年度は3つの勉強会を開催することができました。OCNet 創立25周年記念勉強会の第二回「戸籍と国籍に関する諸問題」を4月30日に、第三回「満蒙開拓団と中国帰国者」を6月24日に、また今年の2月3日には「入管法改訂を考える」をテーマに勉強会を行ない、多くのスタッフが参加しました。これらの勉強会を通し社会の実態を知り、必要な知識、見聞を広めることで、OCNetの活動の3本の柱である相談、日本語教室、交流イベントがより連携、協力できると感じました。知らないことも多く、勉強会の後で憤りやいろいろな考えさせられることがありました。OCNetは創設時から「外国人とともに生きる」を趣旨に活動してきました。私たちは、これからもこの姿勢で活動を続けていかなければならないと強く思いました。

相談は毎週土曜日に事務所に活動を実施しました。また、いろいろな人や他機関などと連携を取り、協力しながら高校進学ガイダンス、多言語相談会、通訳派遣などを行ない、地域に居住する外国人のさまざまな相談に応じました。高

校支援プロジェクトとして、高校生の授業での日本語支援も行ないましたが、学校との連携は容易ではありませんでした。問題の解決への道は遠いのですが、共に考えるというスタンスで今後も相談にあたります。

にほんごのひろばにおける日本語学習支援は、随時学習者の受け入れは行なっているものの定着せず、学習者の増減が予測できないため、状況に応じたクラス運営となりました。ふれあいはすぬまの教室予約のための抽選会では最低10名のスタッフが必要で、各教室から参加できるスタッフを集めるのに苦労しましたが、何とか教室を確保することができました。また、子ども教室では学習者が増えはじめ、スタッフ不足になり、水、金、山王教室のスタッフもヘルプに入るなどしてクラス運営することができました。どちらも大変ではありましたが、皆で協力することでいろいろな教室のスタッフと関わることができ、また教室の様子もわかり、いい機会にもなりました。

中国帰国センターの事業では、10周年記念誌の発刊に向けて原稿の収集、編集や、帰国者の高齢化に伴い今後の介護状況を把握するための実態調査としてアンケートを行ないました。年間行事はバスハイク、秋の一泊旅行、帰国者センターまつり、帰国者と新年を祝う会、いちご狩り等を

企画し、帰国者問題の啓発、そして帰国者やスタッフとの交流を深めることができました。また交流サロンでは料理、ダンス、合唱、太極拳、散歩など帰国者が興味を持って楽しめる企画を考え行ないました。年々予算が削減される中、スタッフ皆で協力し活動しました。

事務局は、OCNet通信の発行やホームページの管理を行い、情報や行われたいろいろなイベント、日本語教室の使用教室などを掲載しました。

OCNetの理念を再確認し、立ち位置を再度考え、発信できる組織となるべく、理事会がまず力を注いでいきたいと思えます。

連載 第一回 移住者と連帯する全国フォーラム・東京 2019 の参加報告

2019年6月1～2日の二日間にわたって日本教育会館にて開催されました。OCNet通信では121号122号の2回に分けて参加者の報告を掲載します。

第5分科会 子ども・若者 移住者の子どもと若者の学びと進路

◆東京での外国につながる高校生の受け入れと支援の取り組みの現状について

多文化共生教育ネットワーク東京 (TEAM-NET) 角田 仁

移住連の子ども・若者分科会で次の内容を報告しました。

1. 東京の高校生の現状と課題

東京都立高校における外国につながる高校生は増加し、都教委調査では、外国籍高校生は1,477人、日本語指導(支援)の必要な外国籍高校生は722人(2018年5月1日現在)である。これまでも、都内での日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンスでは、2018年度までの18年間で5,600人を超す親子の参加があり、多くの子ども・若者が都立高校に入学した。しかし、文科省の調査によれば、日本語指導が必要な高校生等の高校中退率は9.61%(全高校生:1.27%、2017年度)にもなり、また、高校卒業時の非正規就職率(40%)等も高いことが判明している。都立A高校定時制では外国につながる高校生の中退率は64%(1998～2005)、都立B高校定時制でも中退率が44%(2005～2013)にものぼる。高校現場でも「ここは日本語学校ではない」という意識がまだ根強い。一方、在留資格による進路の制限の問題も山積しており、現場での取り組みが求められている。

2. 都立高校の制度と実態

日本語指導の必要な高校生たちへの対応としては、教科学習での「取り出し授業」、「日本語外部人材活用」、「退職教職員ボランティア」などの制度がある。しかし、一部の在京外国人受け入れ校(7校のみ)を除き、通訳の配置はなく、高校か

らの保護者や高校生への翻訳もない。また、高校卒業時の進路においても、在留資格や国籍に配慮した進路指導の取り組みは一部の高校のみであり、高校生の母語や特性、その潜在的な力を伸ばしていくことは弱い。

3. 地域のNPOの取り組み

地域のNPOによる、高校と連携して日本語支援や生活相談、新入生のための高校ガイダンスなどの取り組みがスタートしている。また、高校現場の教職員とNPOが連携して、外国につながる高校生のための交流会や高校卒業後の進路のためのガイダンスも始まっている。このような場で高校生が在留資格や進路について個別の相談ができるようになった。

4. 東京で、各地域でネットワークを!

立ち遅れている高校での現状に対して、学校や教育行政と連携・協働して高校生を支援していくために、地域の支援者、弁護士などの専門家、研究者、高校教員たちによる多文化共生教育ネットワーク東京(TEAM-NET)が1月に発足した。今後の活動に注目したい。

また、東京での大きな課題の1つに、子ども・若者が直面するさまざまな壁を、関係機関や東京都に声を伝え、解決や改善をめざすアクション・ネットワークがないことである。国レベルでの省庁交渉は移住連があるが、大田区、東京からの声を伝えることができたらと思う。

◆「学校へつながる子どもたちに向けての、高校支援(現場報告)」についての報告

OCNet にほんごのひろば 琴崎 馨

標記の件、黒田さんにつくってもらった議事録を元に、下記のようにご報告します。

海外勤務や海外エンジニアの日本語研修にも関わった経験を生かして、外部人材として外国人生徒への支援活動をしており、具体的な支援の手法を含め、課題提起をしました。

2018 年度、東京都の私立高校授業料無償化により、一部の都立高校が「定員割れ」になった結果、入学した外国人生徒が、一見、日本語が普通に通じると見えていても、実は正確なコミュニケーションができていなかったり、学校からの通知文が読まれていない、などの問題が浮き彫りになりました。そのため OCNet も都立の2高校から「日本語支援」の要請を受けました。

授業中のアテンドを始めたが、生徒の傍らでのウィスパリングは授業のじゃまとなり、生徒も恥ずかしがるので取り止めとなりました。そこで、OCNet としては、放課後に教科内容を、生徒の教科書とノート書き取りをもとに、かみ砕いて説明することとし、基礎的な日本語の確立をめざして、「日本語能力試験」2級受験の勉強に取り組みました。ケースによっては、生徒の母語や第二言語の英語や「やさしい日本語」を使用することもありました。

日本語を母語としない子どもにとって、生活言語としての日本語能力は1年で獲得できるが、学習言語としての日本語能力の獲得には通常7年程度かかることが、もっと広く理解・認識される必要があります。具体」として、教員が「名前を

書いておいてください」と言えば生徒は「書いても書かなくてもいい」と誤解しやすいが、もし「名前を書いてください」と言えば生徒の誤解がなくなります。こうした表現の違いに留意して、教科書記述についてもリライトする必要があることや、「利益」という概念がイスラム文化圏の子どもには理解しづらいことなど、概念の日本語や同音異句が理解されにくいことに留意して、わかりにくい教科書記述をリライトする必要があることを示しました。

次に以上をふまえたうえで次の3つの提案をしました。①上述のような放課後のかみ砕いた教科学習と日本語能力試験や漢検などの日本語学習を、日本語支援のスタンダードな方法として確立すべきである。②実効性のある人材リストを確立して人材ネットワークが確立されるべきである。③外部人材が事前に予習準備するために学校の教科書閲覧を確保することが大切である。たとえば学校の図書室や地域の図書館に、教科書一式が閲覧できるような措置が望まれる。

さらに、学業の到達目標に関して問題提起をしました。日本語を母語としない生徒に対して、到達目標を日本人生徒と同じ設定にすることに無理があれば、成績に反映し、推薦入試などの進学の道を狭めることにつながるが、これを「公平」と考えていいのかという問題提起をしました。具体的には、評価の基準を、固定座標への到達とするか生徒自身の成長度とするかということです。

◆移住連全国フォーラム参加スタッフの感想

移住連国際フォーラムは初めての参加でした。

高校生や外国人の方も多く来場している中で始まり、ダイアログではサヘルローズさん、矢野ディビットさんのスピーチで「見返りを求めない優しさ」「お節介も時には心のフォローになる」「一人一人の一步が寄り添う気持ちに繋がる」という日本での体験談には言葉の重みを感じました。

日本語分科会では、技能実習生に対して現場ですぐ使える日本語指導は言葉のコントロールをしないので自然な話し方を教えられるメリットがあるが、文法は学習者自身の勉強となる。

介護職の分野では4技能が必要となる為現場のニーズにあった教育ができる人材が求められることから、今後も一層日本語教育は必要になると思われました。

(にほんごのひろば：高橋 博子)

私は「移住女性の分科会」に参加しました。

まず、日本で無給で働かされたり、日本人の夫のDVから子どもと逃げたり、つらい経験を乗り越え、現在は通訳や移住者の労働・人権問題の支援をしている3人の方の話をうかがいました。

次に、韓国で文政権が進めている在韓外国人や

移民に対する多文化制度の整備について、ソンドン外国人勤労者センター長と在韓ベトナム協会長（いずれも女性）の報告がありました。移民をほとんど認めない日本に比べ、人権を尊重し前向きに取り組む、お隣韓国の現状がよく分かりました。（にほんごのひろば：山中 菊江）

その他の活動報告

■東京南部高校進学ガイダンス

7月15日（月・祝）場所：品川区立中小企業センター

参加者は26家族、49名 でした。

内訳は、中国16家族、フィリピン7家族、インドネシア、ネパール、マラウィ各1家族 です。
（葵 佐代子）

◆今後の予定

10月13日（日）13：00～16：30 場所：都立六郷工科高校
東京南部高校進学ガイダンス
現在中学2年生、3年生の方がいたら、ぜひ声をかけてください

10月27日（日）12：00～16：00 場所：大田区萩中集会所
第五回大田区中国帰国者センター祭り
---中国残留孤児二世の語り部を聞く会と交流のつどい---
で行われます。

第一部は、12：00～14：00「中国残留孤児二世の語り部を聞く会」として行います。台東区にある中国帰国者支援交流センターでは、中国残留邦人が高齢化し生の記憶が薄れていく中、その体験と労苦を受け継ぎ伝承者となる「語り部」を育成しています。今回、私達のセンターまつりでその語り部の方に出演していただけることになりました。DVD「満蒙開拓の真実」を見た後、語り部のお話を聞きます。

第二部は、14：00～16：00「中国帰国者交流の集い」です。中国帰国者グループ「夕陽紅」による歌と踊り、帰国者の二胡独奏・合奏、日本語教室参加者の輪唱、センタースタッフの合唱、支援者によるバイオリン演奏等を予定しています

正会員は2019年度年会費（6,000円）の振込をお願いします。

振込口座：三菱UFJ銀行 蒲田支店 普通 0038048 ジャーネット

賛助会員を募集しています。OCNetの事業、活動内容にぜひともご賛同いただき、本会の賛助会員にご加入下さいますようこころよりお願い申し上げます。

なお、賛助会員には団体でも個人でもご加入できます。賛助会員1口3,000円

発行・発行／一般社団法人 OCNet

URL: <http://www.ocnet.jp>

住所：〒144-0051 東京都大田区西蒲田 6-36-14 TTK マンション 1F

Address: 1F, 6-36-14 Nishikamata, Ota-ku, Tokyo, 144-0051

TEL&FAX: 03-3730-0556 E-mail: jimukyoku@ocnet.jp